



## 人権週間から

先週は、人権週間でした。今年も全国各地で様々な催しや取り組みが行われたことでしょう。わたし自身、毎年、この時期に意識して初心にもどり、「人権」や「生き方」について考えるようにしたいと思っています。今回は、昨日の全校集会で生徒に紹介した、人権作文と絵本を載せさせていただきました。ご家庭で「自分も人も大切にすることとは」「本当のしあわせとは」など、お話ししていただくひとつのきっかけになれば、幸いです。

平成27年度人権作文

「ぼくの生きる道」

千葉県浦安市立高洲中学校 1年 小林 想

ぼくは障害者だ。なぜって？わからない。生まれつきそういうことになっていた。今は何とか歩けるが、体のバランスを取るのがすごく難しいし、字が書けないという致命的なハンディキャップを抱えている。

ぼくが一番古い記憶は保育園の時だ。当時三歳以上は同じ部屋で生活していて、その時に、ひとつ年上の子から「想ってなんですぐ転ぶの？枯れたチューリップみたい。」と笑いながら聞かれたことがある。その時ぼくは、「分かんないよ、そんなの。」と答えた。本当の答えをあまり知らなかったからである。

だけど、小学生ぐらいの時に（自分はこういう運命なんだ）と悟った。運動会の時だ。練習でもうまくついていけなかったぼくは、本番でもダンスの移動を間違えて、大幅に皆より遅れてしまい、大恥をかいだ。泣いたりはしなかったが、心の中で叫んだ。「全ては、この不自由な体のせいだ、あーあ、こんな体いらないよ。」と。

こんな体をもって、大変でしょと言う人がいる。もちろん大変だ。例えばいじめ。これは、障害者じゃない人にもあるかも知れないが、それとはわけが違ふ。障害者に対するいじめは、正直言って「いじめ」ではなく、「差別」だからだ。

ぼくの体験談だが、ぼくは今年、住んでいる市主催のキャンプに参加した。その時の参加者の中で、ぼくが最年長だった。だから、必然的に班長になってしまった。翌日、班員がうるさかったので何回か注意したが、全く効果がない。先生が出る幕だとも思ったが、先生方はちょうど会議中だった。仕方がなくぼくはかなり強く、「おい、静かにしろよ。」と言った。返ってきた言葉は「ウルセーよ。障害者のくせに威張るな。」だった。ぼくにはかなりキツイが、こんなことは日常茶飯事だ。

ここまでネガティブな話が続いたが、しかし、ぼくの人生が暗闇だけかといわれるとそうではない。いい経験もしている。

ぼくは、小学六年生の時に、はじめてサーフィンを体験した。ボランティアのサーファーに教えてもらう機会を得たのだ。

最初に、海の横の湖みたいところで、SAPという棒を持ってボードに立つことを練習して、慣れてきてから本格的に海に出た。周りにはたくさんのサポートしてくれる人が居たので、安心だった。ボードに寝そべって波に乗るボディボードから始め、だいぶタイミングがつかめてきたところで、初めて立つことに挑戦した。・・・もちろん、失敗。波が押しつけてくる中、ボードが傾かないように調整し、立てるほど、ぼくは器用じゃない。何回も落ちて、溺れそうになって、這い上がって辞めたくもなったが、コーチは諦めることを許さなかった。「障害に甘えるな、やれば出来る。お前なら出来る。どうしてもものところは手伝ってやるから。」と。でも、時間がたつほど、ぼくの足は重くなる。体力の限界が近づいていた。ぼくは、コーチに後五回でやめさせてくれとお願いしてしまった。その五回のうちの二回目、コーチが「いい波が来た、いけるぞ、想。」と叫んだ。ぼくは、最後の力を振り絞り、今まで教えてもらった通りに立つ準備をした。全身の力をひざと足に集中させて立つ。

・・・立った。生まれて初めてのスローモーションだった。すごいぞ！立った！このぼくが波に乗ったんだ！・・・

あれ？と気づいた時には、板から落ち、水の中だった。海から出た時はもうフラフラだったが、とても気分が良かった。波に乗っている時の風、海の音、すべてが爽快だった。そして、何よりも自分に自信がもてた。このぼくが、サーフィンが出来たんだ、最初は、何も出来なかったけど、頑張れば出来るんだ。障害なんて関係ない、要は自分がやるか、やらないか、出来ないことなんて何もない、もう何も怖くないぞ、とこの経験でそんな自信を得ることが出来た。これも教えてくれたコーチやサポートの方達の支えがあったからだと思う。

ぼくは障害者だ。たくさん嫌な思いをしてきたし、大変な思いも常にしている。でも、おなじくらい人から優しくされてきた。だから、何とか毎日元気に過ごせている。すべての人が相手を思い、優しくしたり、むやみに人を傷つけることをしない社会になればいいと切に願う。そしたら、どんな人もその人らしく生きることが出来ると思う。

これからぼくは、周りの方への感謝を忘れずに、不自由な体とうまく付き合い、少しの手助けは必要だけれど、やれば出来るという自信をもってやっていきたいと思う。障害があろうがなかろうが、ぼくららしく生きていく。時に少しブサイクだろうが、それがぼくの生きる道だ。

## しあわせ

レイフ・クリスチャンソン

しあわせってなに  
夏の太陽  
それとも ふりつづいた  
雨のあとの太陽だろうか

しあわせってなに  
勝つこと  
それとも  
ベストをつくすことだろうか

しあわせってなに  
つぎつぎと成功をおさめること  
それとも  
できないと あきらめていたことを  
やりとげることだろうか

しあわせってなに  
ほしいものを すべて手にいれること  
それとも  
ほしいものを さがし求めることだろうか

しあわせってなに  
王様のように  
思いのままにできることだろうか  
それとも  
たいせつだと思ったら  
勇気をだして  
やってみることだろうか

しあわせってなに  
人気者になること  
それとも  
ひとりぼっちで悲しいときに  
だれかが気づいて  
心配してくれることだろうか

しあわせってなに  
なにかを やりとげること  
それとも  
なにかに取り組みはじめることだろうか

しあわせってなに  
自信をもつこと  
自分をたいせつにすること  
そして  
自分とおなじくらい  
ほかの人もたいせつにできること

